

# 国会闘争速報

2006年12月16日 第41号

発行：全国労組交流センター

東京都台東区元浅草 2-4-10 五宝堂・伊藤ビル5F

TEL 03-3845-7461 FAX 03-3845-7463

kokkaitousou@yahoo.co.jp にアドレスを送ってください。連日、「国会闘争速報」をメールします。

## 教育基本法の改悪弾劾！

——ねらいは「愛国心」強制と日教組つぶし



改憲と戦争に向かう安倍政権を倒せ！

「最低限の民主主義も無視して強行採決した。認められない。こんな国会に教育を扱う資格はない。こんなものは無効だ」（大内裕和さん）。

「強行の暴挙を糾弾する。安倍は『美しい国』というが、あらゆる汚い手口を使ったではないか」（被処分者の会Kさん）。

国会前で2千5百人が大シユプレヒコールを続けていた17時50分すぎ、参議院本会議で教育基本法改悪案の採決が強行された。保坂展人議員の表現を使えば、「安倍政権は、高速道路を疾走するように教基法審議を終了し、強行採決した」。国会前に結集したすべての人々は、この歴史的暴挙を心の底からの怒りで徹底弾劾した。

「改悪を覆すのは私たち」

この日、年休をとって結集した教育労働者を先頭に、何千人もの労働者・学生・市民が国会前行動に決起した。6名のハンスト者を中心に支援約200名で座り込み闘争が貫徹された。

北海道、石川、大分など全

国から教育労働者が参加している。都高教・東京教組も最大動員で挑んだ。動労千葉などが呼びかけた抗議集会がもたれた。あちこちで集会が開かれ、要請行動や傍聴行動が組織され、シユプレヒコールが鳴りやまない。教基法改悪案の成立阻止をめざして集まったのだ。

「全国連絡会」が採決直後、国会前集会を開いた。その後、「11・5労働者集会実」が総括集会を開き、闘いの展望を提起した（裏面に発言掲載）。

「私たちはのべ1500人の組合員を国会前に派遣して闘ってきた。改悪を阻止できるのは私たちが考えてきた。安倍政権は強行採決という暴挙を繰り返すことはできても、私たちが広げてきた闘いを覆すことはできない」（北教組Nさん）。

安倍は、戦争のために、日教組の解体、教育の支配、「愛国心」強制に乗りだした。絶対に許せない。安倍政権打倒の闘いを労働現場からつくりだし、教基法改悪を必ず覆すことを全員の誓いとしよう。

## 政治の主人公は労働者 闘う日教組の再生が鍵

神奈川県高教組Sさん

日教組運動を愛し、日教組運動に責任をとる立場から総括提起したい。

安倍反動政権による強行採決に対して満身の怒りをもって弾劾する。二度と戦争への道を繰り返さない、あらめてその決意を固めた。しかし敗北感はいまじんもない。むしろここから新しい歴史がはじまる。

この半年間、私たちは国会前で多くの人とともに闘いぬいてきた。その先頭に「日の丸・君が代」不起立を闘う教育労働者がいたことを私は誇りに思う。私たちの闘いが徐々に国会を動かした。労働者が政治の主人公なんだ。この闘いを来年にむけて大きく発展させようではないか。

今日をもって安倍は改憲と戦争にうってでた。彼は5年のうちに改憲をやると言っている。安倍にとつてまさにイバラの、地獄への道になるだろう。なぜか。戦争というのは労働者を動員しないとできないからだ。労働者はすべてを止めることができる。敵の弱点ははつきりした。森や中川が「日教組、自治労をつぶせ」と言ったように、労働者の戦争動員が弱点なのだ。

まず、私たちが闘う日教組を取り戻す必要がある。本部・森越に未来はまかせられない。この局面に森越はおらず、日教組の旗もない。日教組の闘う仲間を裏切つて「座り込みはもうしない。やっているのは日教組ではない」と言った。すでに日教組は死んで抑圧物になっていく。各地で日教組運動を闘う労働運動として取り戻す、ここにすべての鍵がある。

ふたつめに、教基法改悪の核心は「日の丸・君が代」の強制にあった。すべてはここからはじまっている。「日の丸・君が代」の問題は戦争動員の問題だ。つまり、すべての労働者の課題だ。



この3月、不起立・不服従をどこまで拡大できるか。それが改悪教基法を葬り去る核心だと思う。教育労働者は、自分たちの責任として闘う。すべての労働者がぜひ一緒に闘ってほしい。

みつめに、通常国会に向けて巨大な国会闘争をぶつけていこう。愛国心強制や能力主義はこれから具体的な法案として襲いかかってくる。なかでも教員免許更新制は明らかに労働運動つぶしだ。教育労働者の思想をチェックし、排除する攻撃だ。5年おきに更新、3年間は仮採用、さらに研修だ人事評価だと繰り返し、労働者の魂を奪

## 「日の丸」不起立が大決戦 現場の闘いが改悪を砕く

被処分者・都高教Fさん

今日は本当に、ものすごく怒っています。今この瞬間から、世の中は非和解の時代に入ったんだと実感している。安倍を倒すのか、私たちが倒されるのか、一つに一つだとはつきりした。

私たちは絶対に負けるわけにはいかない。屈服して戦争に協力するわけにはいかない。そのためには闘うしかない。あの安倍や石原は馬脚を現しました。結局、自分たちが裕福に暮らしたいために労働者と子どもに犠牲を強いているのだ。絶対に、本当に許す

い去ろうとしている。国鉄分割民営化と同じやり口だ。私たちは分民を経験している。闘わない奴はどこまでもダメになる。日教組が職場闘争を放棄し、

団結が奪われていったときに多忙化がはじまり、子どもたちの命さえも守れないような現状になっている。この現実を打破するたたかいを、今日までの大きな地平の上に立つてやりぬこう。

この三つを闘いの柱にして、07年にむけて闘いを進めよう。もう一つ、青年労働者、学生が新しい息吹を生み出した。青年労働者と学生がすべてを決するだろう。教育労働者はともに闘う。

ことはできません。

私たちはこの怒りを現場のなかで燃えたらせ、周りに火をつけることが求められている。9・21判決はこのままでは紙切れだ。しかし、逆に言えば改悪法だつて紙切れにすぎない。現場の教育労働者が従わなかったら、まさに絵に描いた餅。私たちはこれから新たな教育基本法を現場でつくりましょう。たたかいでつくりましょう。

明日からそのたたかいははじまります。そのために「日の丸・君が代」不起立が決戦になります。教育労働者が真つ先に血を流さずして、誰が教育問題をたたかえるでしょうか。私たちは、続々と不起立する流れをつくってたたかきましょう。